

1 TICAD(アフリカ開発会議)

- ◆ TICAD(アフリカ開発会議(Tokyo International Conference on African Development))とは、1993年に我が国が立ち上げたアフリカの開発をテーマとする首脳級会合。(1993年以降、これまで5年毎に計5回の会議を日本で開催)



2 TICAD VIIについて

- ◆ 次回のTICADVIは、本年8月27 - 28日に初めてアフリカ(ケニア・ナイロビ)で開催。今後は3年毎に日本とアフリカで交互に開催。
- ◆ TICADアフリカ開催は、日本の貢献をアフリカの人々に広く認識してもらう絶好の機会。日本の技術・製品がアフリカの安定と発展に貢献することを紹介し、官民連携を通じた日本企業の投資促進に繋げる。(TICAD VI公式イベントとして、ジャパンフェア(日本企業・団体等による展示会)を開催。フードバリューチェーンをテーマとしたゾーンが設けられるとともに、栄養改善に関するブースを設置予定。)

3 新たな課題・進展への対応、想定される優先課題

- ◆ 2013年6月に開催されたTICAD V以降、アフリカで発生した諸問題(エボラ出血熱の流行、保健システムの脆弱性、暴力的過激主義の拡大、国際資源価格の下落等)への対応の必要性の顕在化。
- ◆ TICAD V以降の新たな動きを踏まえ、①アフリカの経済多角化・産業化、②強靱な保健システム、③社会の安定化を始めとする各分野において、日本の強みを活かした具体的貢献を示せるよう共催者及びアフリカ各国の官民を挙げて議論。

4 農林水産省の取り組み方向

- ◆ 農林水産省としては、アフリカの農業・食産業の発展に向け、フードバリューチェーンの構築、栄養改善、気候変動への適応等を進めていく。